#### バイアグラの効果

項目	内容
なれ、 <b>た</b> 田松 <b>ウ</b>	PDE-5を阻害して勃起を促進させる。
効能・作用機序	勃起不全の改善。
効能に関連する注意	投与に際しては、勃起不全及びその基礎疾患の診断が必要。
別能に関連する注息	既往歴の調査や諸検査を行ったうえ、診断に基づいて治療が必要な患者にのみ限定。
作用時間	25mg/4時間·50mg/5時間
服用方法	性行為の1時間前を目安に1日1回まで服用が可。 ・錠剤/水とともに服用 ・フィルム/舌で溶かして服用
食事の影響	食後は吸収が阻害されて充分な効果を発揮できないため、空腹時の服用を推奨。
お酒との相性	適度な飲酒の場合は服用可能だが、過度な飲酒は推奨されていない。

服用禁忌	・バイアグラの成分に対して過敏症の既往歴がある患者 ・重度の肝機能障害がある方 ・低血圧の方(血圧 < 90/50mmHg) ・高血圧で治療を受けていない方 ・心血管系の障害により性行為が望ましくない方 ・6ヶ月以内に脳梗塞・脳出血や心筋梗塞の既往歴がある方 ・網膜色素変性症の方 ・以下のような特定の薬剤併用の方 ※硝酸剤、一酸化窒素(NO)供与剤を投与中の方 (ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド、ニコランジル等) ※アミオダロン塩酸塩(経口剤)を投与中の方 ※可溶性グアニル酸シクラーゼ(sGC)刺激剤(リオ シグアト)を投与中の方
併用禁忌薬	・硝酸剤およびNO供与剤 (ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド、ニコランジル等) ・アミオダロン塩酸塩 ・sGC刺激剤(リオシグアト)
子作りへの影響	薬の成分により胎児や母体に影響を与えることはない。

保険適用の可否	原則では保険適用外だが、EDによる男性不妊治療の場合、条件付きで保険適用可
---------	---------------------------------------

### バイラグラ副作用

## 副作用発現頻度(錠)

	開発国内	開発外国	使用成績	合計
評価対象例数	157例	823例	3152例	4132例
発現例数	65例	261例	166例	492例
発現率(%)	41%	32%	5%	12%

#### バイアグラの副作用の発

見

<臓器別発現例数>	開発国内	開発外国	使用成績	合計
	例数	例数	例数	例数
血管拡張(ほてり、潮紅)	17	125	97	230
高血圧	2	2	0	4

動悸	1	3	0	4
洞性不整脈	1	1	0	2
末梢性浮腫	1	1	0	2
めまい	1	18	2	21
異常感覚	1	1	0	2
下肢痙攣	1	1	0	2
記憶力低下	1	1	0	2
筋緊張亢進	2	2	0	4
精神混迷	1	3	0	4
神経系錯乱	3	3	0	6
思考異常	1	1	0	2
神経炎	1	1	0	2
神経症	1	1	0	2
不安	2	2	0	4
不眠症	1	1	0	2
無気力	1	1	0	2
ALT (GPT) 上昇	2	2	0	4
AST (GOT) 上昇	3	1	0	4
LAP 上昇	1	1	0	2
トリグリセリド増加	2	2	0	4
γ-GTP 上昇	1	1	0	2
肝機能検査値異常	1	1	0	2
血清リン脂質上昇	1	1	0	2
血中アミラーゼ増加	1	1	0	2
血中アルブミン減少	2	2	0	4
血中ビリルビン増加	2	2	0	4

総蛋白減少	2	2	0	4
心里口腻多	۷	۷	U	4

臓器別発現例数	開発外国(例数)	使用成績(%)	合計 (例数)
おくび	1	0.12	1
悪心	10	1.22	12
胃炎	1	0.12	1
胃不快感	6	0.73	6
下痢・軟便	1	0.64	1
口唇乾燥	1	0.64	1
消化不良	1	0.64	1
舌障害	1	0.12	1
腹部膨満	1	0.64	1
便秘	1	0.64	1
嚥下障害	2	0.24	2
射精障害	1	0.64	1
呼吸障害	2	0.24	2
鼻咽頭炎	16	1.94	17
筋肉痛	4	0.49	5
骨痛	1	0.12	1
そう痒症	1	0.64	1
眼障害	1	0.64	1
発疹	1	0.49	1
皮膚乾燥	1	0.64	1
皮膚障害	1	0.12	1
ヘマトクリット減少	2	1.27	2

ヘモグロビン減少	1	0.64	1
リンパ球減少症	1	0.64	1
好酸球増加症	3	1.91	3
赤血球減少症	1	0.64	1
白血球増加症	2	1.27	2